

# 令和5年度 第2回 北海道総合開発委員会計画部会 議事録

日時：令和5年11月10日（金）14:00～16:30

場所：第二水産ビル 8A会議室

## ○出席者

〔委員・参与〕高橋部会長、石井副部会長、岡田委員、加藤委員、川村委員、佐藤委員、中村委員、水野委員、古地参与 9名出席

〔北海道〕三橋総合政策部長、笠井計画局長、佐々木計画推進課長、笹森地域戦略課長

## （佐々木計画推進課長）

それでは、定刻となりましたので、ただ今から、令和5年度第2回北海道総合開発委員会計画部会を開催いたします。

開会にあたりまして、総合政策部長の三橋よりご挨拶申し上げます。

## （三橋総合政策部長）

皆さん、こんにちは。お疲れ様です。本日は、天候も悪く、お寒い中、第2回北海道総合開発委員会計画部会にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

前回開催させていただいた部会では、新たな総合計画の策定に向けまして、骨子をお示しさせていただいたところでした。それをたたき台に、めざす姿の方向性をはじめ、ご意見を頂戴いたしました。その場におきましては、委員の皆様方からは、「世界」「多様性」というような貴重なキーワードをいただきました。また、前向きなメッセージを打ち出すことが重要、といった今後の取りまとめをしていく上でも、大変参考になるご意見をいただいたところでございます。

また、その後、並行する形になると思うのですが、夏から秋にかけて、道民の方々、あるいは、企業の方々、団体の方々へのアンケートをさせていただいて、いろいろなご意見をお伺いいたしました。また、職員が直接地域に出向いて、若い方々を含めて、直接、住民の方々のご意見をお伺いして、地域の実情あるいは、地域の方が抱える課題、あるいは、将来に対してのご意見を頂戴したところでございます。

本日は、時間の関係で詳しい調査結果の内容は、資料として添付させていただきました。後ほど、そのエッセンスは、ご説明させていただきたいと思いますが、そのような取組をさせていただきました。

その上で、本日の計画部会につきましては、これまでのご意見、それから、地域の声を踏まえまして、今回の新たな総合計画の素案の事務局案ということで、たたき台を整理いたしましたので、今日この場で、是非ご意見をいただければと思っております。

委員・参与の皆様には、是非、忌憚のないご意見、ご感想をいただければと思っておりますので、そのお願いを申し上げまして、開会にご挨拶に代えさせていただきたいと思っております。

本日は、どうぞよろしく申し上げます。

## （佐々木計画推進課長）

本日の会議の出席状況についてでございますが、現時点で過半数を超える9名の方が参加されておりますので、北海道総合開発委員会条例施行規則第4条第1項及び第5条第6項の規定によりまして、部会が成立していることをご報告申し上げます。

本日の会議は、報道関係者を含めまして、公開での開催とさせていただいております。また、議事録につきましては、後日、道のホームページで、発言者のお名前入りで公開させていただきます。

なお、中村委員におかれましては、所用により途中退室となりますので、ご承知下さい。

会議資料は、お手元に配付しておりますが、会議次第、出席者名簿のほか、会議次第の下に記

載しております、資料1から5、参考資料1から3までとなっております。適宜ご参照ください  
ますよう、お願いいたします。

それでは、ここからの議事は高橋部会長、お願いいたします。

### 議題(1)素案(事務局案)について

#### (高橋部会長)

それでは、議事を進めてまいりたいと思います。まず、本日の部会の所要時間につきましては、  
およそ2時間程度を見込んでおりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の審議事項でございますが、その他を含めて、2つございます。「新たな総合  
計画・素案(事務局案)について」、最初に、事務局から一括してご説明いただきたいと思います  
ですが、議論に関しましては、少し分けてさせていただきたいと思います。最初に、「北海道のめ  
ざす姿」、その次に、「政策展開の基本方向及び指標の項目」、「地域づくりの基本方向」、  
「総合計画の考え方と計画推進」、4つに分けて議論させていただきたいと思います。それでは、  
最初に事務局から一括して資料のご説明いただきたいと思います。

#### (佐々木計画推進課長)

計画推進課長の佐々木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私の方から資料1と資料4を中心にご説明申し上げます。まず、資料1をご覧下さい。表紙の  
1ページでございますけれども、8月24日に開催した第1回計画部会においてご審議いただ  
いた骨子案でございます。それについては、「総合計画の考え方」、「北海道の将来展望」、「計  
画の推進」の記載内容をご議論いただくとともに、「北海道の「めざす姿」」や「政策展開の基  
本方向」、「地域づくりの基本方向」について、素案の検討に向けた方向性などに関しご意見を  
いただいたところでございます。

本日は、表の素案の○印の付いた項目の部分を中心にご議論いただきたいと思いますと考えております。

2ページは、これは8月24日の計画部会で「計画のめざす姿」の方向性についてご議論いた  
だいた資料をまず付けておまして、3ページは、計画の素案とりまとめに向けた主な意見とし  
まして、左側に委員の皆様からいただいたご意見を、右側に道民・企業等の方々へのアンケート  
調査や地域住民や市町村の皆様方から職員が直接聴取した道民意向等の概要を記載しております。

委員の皆様からのご意見は参考資料2の議事録に記載しておりますが、その中から

- ・ 「めざす姿」は、前向きに、勇気づけられるポジティブなメッセージの発信が望まれる
- ・ 多様性は人と地域であり将来展望も北海道全体だけでなく、各地域で展望することが重要
- ・ 持続性の観点から、北海道の特性や潜在力を認識することはとても重要

といったご意見を、また、右側道民の皆様からのご意見は強みや潜在力といった視点から  
「食・観光・エネルギー・デジタルなどの産業振興」に期待するといったご意見、直面する課題  
や地域に必要なこととして、「人材確保」「地域交通の確保」「医療・介護」「教育」などに関  
し対応や充実を要するといったご意見をいただいたところでございます。

なお、資料2「道民意向調査等 実施結果のポイント」及び参考資料1「道民意向調査等の結  
果概要」に詳細を記載してございます。

そして、4ページについては、道民意向の調査や委員の方々の意見を踏まえながら、資料の上  
部に記載しております、3つの視点「成長と潜在力の発揮」、「重要課題の対応」、「各地域の  
持続的な発展」を基に、これまでの計画部会でのご議論、地域住民等ヒアリング結果を基に構築  
しております「めざす姿」の考え方の案、そして、コンセプト図をお示ししております。考え方  
の文章を申し上げますが、

今、デジタル化や脱炭素化といった社会変革、エネルギーの安定供給や食料・経済の安全保障  
に関する意識の高まりなど、世界的に大きな変化の時代を迎えている。豊かな自然や広大な土地、  
冷涼な気候などの北海道の特性と、食や観光資源、再生可能エネルギーといった道内各地域が世  
界に誇るポテンシャルを発揮して、様々な変化を捉え、国内外から人や投資を呼び込みながら、  
女性や高齢者、外国人をはじめ多様な人が活躍する魅力ある地域を創り上げていく、そのことが、

各地域の持続的な発展を図っていくための鍵となる。

最後の段落でございますが、こうした考え方の下、人口減少が進行し、地域社会の縮小に直面する中、多様な人がそれぞれの可能性を發揮しながら、地域の力を高め、地域の外からの力を活かすといったこの2つの相乗効果で地域を活性化し、北海道の飛躍につなげていき、そして、一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる社会の実現をめざしていく、という「考え方」を示させていただきます。

5ページには、その4ページの「考え方」から「めざす姿」のフレーズを複数の検討案としてお示ししております。これについては、道民の皆様をはじめ広く様々な方々に、計画のめざす姿を簡潔にわかりやすく、明確に伝えていきたいという趣旨で設定するものでございまして、新たな総合計画では、めざす姿は、枠の上段は「北海道の外側」を意識した方向性で、下段は「北海道」というフィールド内、道内の人や地域の方向性、この二つのフレーズを組み合わせ示していければと考えてございまして、

まず、資料の上部に、「北海道の力が／日本そして世界を変えていく」「北海道の価値で／世界に飛躍する」「世界とつながり／北海道の価値を高める」の3つ、また、これと組み合わせる下段のフレーズは、「一人ひとりが／豊かで安心して住み続けられる／社会へ」と「多様な人が活躍し／豊かで安心して住み続けられる／地域を創る」の2つ、それぞれその下に括弧書きに視点を記載してございます。

最後に6ページでございますが、「めざす姿」実現に向けた政策展開の基本方向については、めざす姿の考え方を基に、部局縦割の「分野」から、政策本意の「基本方向」をトップに政策体系を再編することとしてございます。[資料1](#)の説明は以上でございます。

#### 【資料4 新たな総合計画・素案（事務局案）】

次に、[資料4](#)をご覧ください。計画の素案・事務局案であります。ポイントを簡潔に記載の内容を説明します。

1、2ページの「第1章 総合計画の考え方」には、策定趣旨、性格、期間、特色、全体像を示してございまして、次の3ページから21ページ「第2章 北海道のめざす姿」（1）の北海道の将来展望については、4つの観点、「人口減少・少子高齢化の動向」、「経済・産業の動向」、「気候変動などの直面する課題」、「新たな技術の活用」という形で、概ね10年後を見据え、将来を展望してございます。

その中で、現況や展望では、地域の実情を押さえることを基本とするとの考えの下で、振興局別などのデータを示すことと留意したほか、22ページ（2）北海道の特性・潜在力として、広大な土地と地理的特性など4点を示してさせていただきます。

そして、23、24ページ、「2計画のめざす姿」は、本日のご議論を踏まえ、素案に記載させていただくということで基本、空欄となっております。

以下、25ページと26ページ、「第3章 政策展開の基本方向」では、「めざす姿」の実現に向け、3つの「潜在力發揮による成長」、「多様な人の活躍と安全・安心な暮らし」、「各地域の持続的な発展」をそういった政策展開の基本方向として設定しまして、それぞれに対応する「政策の柱」と「目標」、「現状・課題と対応方向」と「政策の方向性」(■)を掲げてございまして、合わせまして、目標の達成状況を分かりやすく客観的に表すため、指標を設定しております。

また、新たな計画の策定にあたっては、政策の柱毎に目標フレーズを掲げ、政策の方向性に対応する「現状・課題」に「対応方向」を付して、より丁寧に記載することとしてございます。

なお、「政策の柱」及び目標、「政策の方向性」の表現や順序については、原案の記述と合わせて精査をさせていただきたいと考えております。

29、28ページは、SDGsの視点に基づいた政策の推進ということで、政策展開との関係性を可視化するよう関係するゴールを政策の柱毎に明示することとしてございまして、これは、原案の段階で改めてとりまとめていきたいと考えております。

29ページから74ページは、個別の政策を記載してございまして、そこで、それぞれ指標を設

定しておりまして、別添の資料5に指標設定の考え方がありまして、素案段階の指標の検討状況を一覧にしております。現在では、105設定しておりまして、なお、指標の中間目標値及び概ね10年後の目標値については、妥当性も含めてご議論いただきながら、原案でお示しするところでございます。

75ページからの第4章は、地域戦略課から後ほどご説明申し上げます。

最後に、89、90ページになりますが、「第5章 計画の推進」でございまして、計画推進の「考え方」、「手法」、「管理」について記載してございまして、3の「計画の推進管理」についてですけれども、点検・評価の実施については、9行目の計画の推進管理状況について、「人口や経済産業の動向をはじめ、各地域の社会経済情勢の変化なども踏まえ、毎年、点検・評価を行う」としてございまして、これは、第2章の北海道の将来展望で示した統計数値等の動向を計画の推進管理において、分析していくという趣旨でございまして、その下、13行目から14行目にある、道民の満足度などの把握については、点検・評価にあたり、必要に応じ、中間点検のタイミングを想定しておりますが、新たな計画策定時のように、今回のように地域住民等から幅広く意見聴取を行うこと、そして、最後に17行目から19行目、計画の見直しについては、政策の指標の中間目標の達成状況などの中期的な点検・評価の結果や情勢変化などを踏まえて、計画の見直しを行っていく考え方を示してございます。なお、この資料4の概要版が資料3となっております。計画推進課からの説明は以上でございます。

#### (笹森地域戦略課長)

地域戦略課の笹森と申します。私の方から、同じく、資料4の75ページ以降、地域づくりの基本方向につきまして、簡潔に、ポイントを絞ってご説明申し上げます。

75ページをご覧いただければと思うのですが、こちらに、まず1として「地域づくりの基本的な考え方」について整理しております。(■)で柱を立ててございまして、「現状と課題」、「地域が発展していくため」ということで、本編でも整理があるのですが、地域としてのものを、現状・課題等について整理しております。

3つ目の「地域づくりを進める基本的な視点」でございまして、地域のめざす姿に向けた取組が書かれてございまして、北海道のめざす姿の実現につながっていくように上段で述べております。社会経済の変化ですとか、人口減少に担い手不足などの課題に対応するためということ、次のページ、76ページでなりますが、地域づくりを進めていく上での基本的な二つの視点というのをお示してございます。まず、1つ目、「個性と魅力を生かした地域づくり」ということで、11行目からでございますが、例えば16行目、「本道の強みである「食」、「観光」の価値向上」ですとか、18行目のところの「地域のポテンシャルを最大限に発揮するDX、GXの推進」といった目標を掲げております。

また、31行目、「様々な連携を進める地域づくり」、もう一つの視点として、33行目、「地域おこし協力隊の活動の支援」ですとか、36行目になります。「外国人も安心して暮らせる環境づくり」とか、こういった項目を掲げて、こういった2つの大きな視点に基づいて地域の協力により、地域づくりを推進していくという整理をしております。

次の77ページですが、計画推進上の方のエリア設定ということで、資料の下半分に地図がございまして、こちらにも記載の通り、中核都市(■)を拠点とする6つの連携地域と、それから14振興局所管地域、これを計画推進上のエリアとして設定をして、それぞれのエリアの特性を生かした地域づくりを進めていく。また18行目になりますけれども、デジタル化の進展などを踏まえて、こういった、今説明した上で地域や振興局所管地域を超えた様々な連携もどんどん出てくるということで、そういった地域・区域を超えた、連携による地域づくりも進めていきます。

次のページ、「地域づくり推進の手立て」、本章の地域づくりの方向に基づく具体的な施策につきましては、地域振興条例に基づきます地域計画である、4行目の連携地域別政策展開方針、この展開方針に基づいて振興局が中心となって推進をしていきます。6行目になりますが、この他に、「北海道創生総合戦略」などの重点戦略ですとか、あるいは、北海道交通政策総合指針と

いった特定分野別の計画、こういった取組と一体として推進をしていくということを述べております。

また79ページ以降については、「地域の方向性」といたしまして地域の現状課題などを踏まえた6つの連携地域の地域づくりの方向、それから14の振興局所管地域の、重点的な施策の方向などを示しております。これは、87ページまで記載しております。地域づくりの基本方向については、以上でございます。

## 「総合計画における北海道の「めざす姿」」

### (高橋部会長)

ありがとうございました。ただ今、事務局より、一括して資料の説明をしていただきました。

これから議論に入りたいと思いますが、今回、お示した素案に関しては、内容が広範囲に広がっておりますので、先ほどお話ししたように、4つに分けて議論をしていきたいと思っております。

繰り返しになりますけれども、「総合計画における北海道のめざす姿」、「政策展開の基本方向及び指標の項目」、次に「地域づくりの基本方向」、最後に「総合計画の考え方と計画推進」の4つに分けて、皆さんからご意見いただきたいと思っております。

最初の「北海道のめざす姿」につきましては、これは今回の中心的な論点でございますので、各委員の皆様から、名簿順でご発言をいただきたいと思っております。水野委員まで終わりましたら、古地参与という形で、皆様からご意見いただきたいと思っております。

なお、先ほどお話ありましたように、中村委員に関しましては、15時で退席ということでございますので、めざす姿と次の政策展開の基本方向、指標、このあたりも含めてご意見いただければと思っております。

それでは、いつも最初で申し訳ないですけど、石井委員の方からよろしく願いいたします。

### (石井副部会長)

石井です。資料1の4ページ目、5ページ目について、今までの議論をまとめていただいて、非常に前向きな文言が増えてきて良いなと思って聞いておりました。

私は、前から言っているように、若者たちが色々チャレンジする、若者だけじゃなくて、いろんな人、皆さんですね、誰もがチャレンジできる社会が、大事だなと思っていまして、読んでみると、多様な人々がそれぞれの可能性を發揮しながら、地域の力を高め、地域の外からの力を活かすというような表現が反映されているのかなと思っておりますし、それから、後から出てきますけれども、心としては、どの世代の方が、いつからでも、どこからでも学べると言いますか、そのような環境づくりが大事だと思っておりましたので、そういったような感じが読み取れるようになってきたかなと思っております。

それから、5ページ目ですけれども、これも私、結構気に入ってしましまして、「北海道の力が日本そして世界を変えていく」と、非常に今までにはないめざす姿のような気がいたしました。その次の「一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる社会へ」っていうところと、「多様な人が活躍し豊かで安心して住み続けられる地域を創る」とありますけれども、これも僕の好みかもわかりませんが、「社会」というよりは「地域」あるいは「創る」という言葉が、僕は結構、前向きな言葉だなと思って、社会というところ少し漠然とした感じがするので、「地域を創る」っていう言葉がいいのかなと。あと、前文で、「一人ひとりが」っていうのと、「多様な人」っていうところに関しては、上の方「一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる社会へ」が短くていいかなと思っておりますけれども、「住み続けられる社会へ」というよりは、「地域を創っていく」というような前向きな言葉がいいかなと個人的には思っておりました。以上でございます。

### (高橋部会長)

はい、ありがとうございました。続きまして、岡田委員、お願いいたします。

(岡田委員)

はい。この資料1を見まして、まず6ページ目なのでけれども、めざす姿の実現に向けた政策展開の基本方向、これが、現在の計画の枠組をガラッと変えまして、とても分かりやすくなったなという印象を受けております。今までは、生活と経済が切り離されていたのですけれども、今度は、それが、「人の活躍」それから「暮らし」ということで一つの所にまとまっていて、この1番、2番、3番、大きな基本方向も、しっかりとまとまっていると思います。

また、基本方向の2番の労働参加のところ、後で素案のところでも、ちょっと触れたいと思うのですけれども、さりげなく「長期無業者」というのをに入れていただいて、私は非常に意味があると思っております。長らく仕事に就いていなかった、施設に入っていた等の人を私は想定していたのですけれども、主として出所受刑者を考えておりました。なので、そういう言葉は使わないにしても、「長期無業者」という言葉を入れていただいたのは、非常に嬉しく思っています。

それから、めざす姿の検討案、いろんな言葉を、前回の非公開の打合せでも検討されたと思います。いろんな意見を、その時の意見を聞かせていただいて、どれももともとだなのですから、私としては、この計画を手にするのは、何よりも北海道に住んでいる人ですので、人の力とか個性とか、地域にしてもその力とか個性が伝わるような、そこに住んでいる人を主体に考えた言葉をどこかに入れていただきたいなという思いがあります。以上です。

(高橋部会長)

ありがとうございます。5ページ目であればこの3つのうちでいくと、岡田委員はどの辺りが的確な表現というふうに思われますか。今の段階では、どれがいいというようなご意見はありませんか。

(岡田委員)

1番上の3つですよ。 「力」という言葉が入っている一番左の案です。

(高橋部会長)

はい、わかりました。ありがとうございます。続きまして、加藤委員、お願いいたします。

(加藤委員)

まず、短期間におまとめいただきまして、誠にありがとうございます。私の方からは、4ページのめざす姿というところの○の4番目に、「人口減少が進行し、地域社会縮小に直面をする中、多様な人が」と書いてございます。この「多様な人」がという意味が、私、福祉の関係でございまして、いわゆるハンデキャップを持った人も含めて、様々な人がそれぞれの可能性を發揮しながらというところですね、こう自分としては非常にうまくいくなという気がしております。

それで、このコンセプト図の中に、「世界的に大きな変化の時代」と書いてありますが、1番下のところで「一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる社会」、これは、大きな変化があったとしても、我々が望んでいるのは、ここ、なのですよ、変わらないのですよというところをやっぱりメッセージ性として出したのかなと理解してございます。ですから、そういうこのコンセプトを理解していくと、このめざす姿、そして、考え方が繋がっていくのかなという気がしたところでございます。

(高橋部会長)

変わるものと変わらないものがしっかり表現されているというようなご意見だと思います。ありがとうございます。

続きまして、川村委員、お願いいたします。

(川村委員)

まずは、これまでの議論を踏まえて、非常にブラッシュアップされてきているなという印象を

持っております。全体的に、内容的には、大分まとまってきているかなと思うのですが、まず4ページのめざす姿について、ここの考え方で、これまでも議論されたように、大きな北海道が抱えている前提として、「人口減少が進行し、地域社会の縮小に直面する」というところが、大きな課題になる中で、この文章を読むと、いきなり「多様な人が可能性を発揮しながら」という文章になっているのですが、まず人口減少が進行して、地域社会を縮小するというのは現状の環境だとした時に、その中で起こりうる問題点、課題点、そのポイントみたいなものがもうちょっとあった上で、北海道の全体的な状況を整理して、その整理された後に続いて、ポジティブな話ですね。これ構成でいくと、背景的なところが、1番最後のはじめの方に出てきているので、そこをもうちょっと書き方を変えて、まずは、現状を把握、それから起こりうる少し未来のこと、それから、ポジティブにそれを変えていくためには、何が必要なのか。当然、全体的なこと、それから、我々一人ひとりの意識の持ち方、考え方だったりというような、内容は良いかなと思うのですが、書き方はもうちょっとわかりやすく書けるのではないかなというのが、4ページ目の印象でございました。

5ページ目は、こちらもいろいろな議論があって、文言もだんだん良くなってきたかなと思っています。全体的にはやっぱり、北海道を舞台として、ただし、多分この計画を見られる方というのは、道民一人ひとりなので、主役は道民一人ひとりであって、北海道というマクロな大きな存在が主役であって自分たちとの関係性がよくわからないというのではなくて、道民が一人ひとり、自分が主役だっていうことを意識するようなことが、前よりは表現されているので、自分事として、この計画が捉えられる、そういうようなメッセージがうまく表現されているような雰囲気になっているのかなと感じました。

6ページ目の方も同じような感じで、それぞれの項目に関して、体系的にも分かりやすくなった気がしますし、どちらかという、左側の（現計画の）分野よりは、新しい計画の基本方向の方が、何となく皆さんも自分事として感じやすいような表現になっているのかなということで、だんだん良くなってきたかなと思っています。以上です。

#### （高橋部会長）

はい、ありがとうございます。確かにそうですね。課題があって、それで、何が起こりうるのかという表現がなく、いきなりその課題に対してどう向き合うのかという話になっています。そこはちょっとロジックとして飛んでいるような気がしますので、その辺りはしっかり書いていただきたいなとも私も思いました。では次、佐藤委員、お願いいたします。

#### （佐藤委員）

ありがとうございます。まず5ページ目の「北海道の力が日本そして世界を変えていく」というフレーズですが、これを見てまさに私はこれを言いたかったんだと気づかされました。と言いますのも、先ほど川村先生からもお話ありましたが、北海道そのものが世界の中で、日本の中で主体的に変えていくんだという主体的、自分事といったイメージがここに含まれていると感じます。「選ばれる」とか受動的なものでもなく、北海道、自分の力によって、世界そして日本を活性化するんだ、そこで活躍するんだという意気込みが強く感じられ、ポジティブなメッセージだなと思います。

一方で、「世界とつながり」の「つながり」というのも捨てがたい。「主体性」と「連携」というのが、僕のライフテーマであるということもあるのですけれども、そういうキーワードも捨てがたいなとも思いながらも、一番左の「北海道の力が・・・」が、今の時代にもあっていて、総合計画のコンセプトにもふさわしいのではないかなと考えておりました。

なお、その下の「多様な人が活躍し豊かで安心して」というフレーズの右に、「上記の視点のもと、人と地域について、より具体的な表現」とありますので、これが意味されているのかもわかりませんが、「多様な人」というのは、主語がどうしてもぼやけてしまうと言いますか、これは誰のことなんだろうというのが、なかなか読み手に伝わりづらい。これは、文章構成と言いますか、文章の性格上しょうがないかもしれませんが、もう少し、次の展開で具体的に、

誰が、どういう人たちが行うのかを、読んだ人がわかるように。さらには、これは自分のことなんだということが感じられるような表現をより強くしていただきたいと考えております。

また、これはもちろん道民一人ひとりが読むものではありません、自分の行動や事業などにおいて、各々が展開することを願う面もありますが、同時にオール北海道でまとまって、全国や世界に向けて、政治的なメッセージとしての役割があるものと思います。これは広義としての政治という意味ですが、その角度からも改めて見てみる必要があるかもしれません。

#### (高橋部会長)

ありがとうございます。オール北海道というのは、なかなかどう表現するのか難しいですけど、ぜひ考えていきたいと思います。それでは、中村委員、お願いいたします。次のところも含めてお話いただいて結構でございます。

#### (中村委員)

時間の関係で途中退席となります。申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

コメントさせていただきたいのですが、まず、皆様と同じように、前回の我々の指摘というか思いみたいなものも含めて適切に反映していただいた内容、構成になっていると思います。是非、これをさらにブラッシュアップしていく形につなげていければいいかなと思っています。ありがとうございました。

その上で、計画のめざす姿について、ちょっとコメントさせていただきますと、資料1の4ページ、○の二つ目、「北海道には、豊かな自然、広大な土地、冷涼な気候などの特性と」という記載がありますけれども、その下に「世界に誇るポテンシャルがあります」という言葉が、具体的に表に出ていないポテンシャルを世界に自慢できるかというところが、何かちょっと違和感を感じておまして、もう少し、今後注目されるポテンシャルであるとか、大きなポテンシャルを持っているとか、ポテンシャルの使い方が自慢げに出ているのが、ちょっと違和感を感じるころが少しありましたので、コメントさせていただきます。

次の5ページ、一番左の「北海道の力が日本そして世界を変えていく」、私も、これを読んだ時に、すごくこう自分たちでやっていくんだというような思いを強くできるようなところがありましたし、先ほどの佐藤委員の発言の「多様な人が」と言った時に、自分は入るかというところの当事者意識をどうやって持ってもらえるかというところで、活躍というのは当然なのですが、まず行動を起こすきっかけになるような呼びかけというか、そういうものがあるといいのではないかなと思いました。

それと、6ページ目の、政策展開の基本方向で、観光のところ①の2番目にありますけれども、これを読むと何となく、観光という小さいエリアで表現されているような感じがするのですが、今、私ども、あるいは、地域の観光事業者の皆様と、やはり観光というのは、色んなものを変える力がある、特に地域の課題とかに向き合って、そこから新しい観光のあり方みたいなものを作っていくという取組を進めておまして、他の分野も同じだと思うのですが、つながり、あるいは、包含、いろんな連携、いろんな形で小さくまとまらずに大きな視点でここは取り組んでいきたいなという、これは、感想でございます。

それと、資料4の方の、これは、確認も含めてなんですけれども、34ページ「魅力や強みが活かされ世界中から愛される北海道」ということで、指標値の案の表が出ていますけれども、ここで、国際会議が2021年は“0”でしたと書いてあるのですが、他の項目は2022年度とか2023年とかがあるのですが、例えば、今年4月にG7の環境大臣サミットが札幌で行われました。そういうものは、ここに含まれるのかどうかというのをちょっと確認させていただきたいと思っております。9月には、アドベンチャー・トラベル・ワールドサミットという世界64カ国から750名の方が集まって千人規模でいろんなイベントを行ったのですが、この方々は、大体プレサミットのツアー参加も含めて2週間ぐらい滞在していただいていた。この時は北海道を中心にいろんな体験ツアーをされたということもありますので、そういうものも国際会議とは言いにくいかもしれませんが、非常に国際的、国際色が豊かな取組だったと理解し



ております。

あと73ページ、歴史・文化・スポーツのところ、アイヌ民族のくだりがございまして、指標、認知度を追いかけていきたいという事務局案なのかと思っているのですが、今日、私がこのあと退席する理由はウポポイの有識者の戦略会議がございまして、そこでは、内閣官房、主管官庁を含めて、年間100万人の来場者を目指そう、もちろん100万人がゴールではなくて、100万人を通して、アイヌへの認知とか、あるいは、共生社会の実現とか、そういうところの目標につながっていくものだと思うのですけれども、これからの会議は相当、皆さん、いろんな形で議論を重ねておられるので、そういうものとうまくリンクしていく目標値であれば、その数字が生きて、さらに、自分たちの目標が共有できるというようなものができるのではないかなと思いますので、ご紹介させていただきました。私のコメントは以上でございます。

#### (高橋部会長)

はい、ありがとうございました。事務局の方で、資料4に関する後半部分の確認も含めて、何か現時点でご回答いただけるところありますか。

#### (佐々木計画推進課長)

はい。国際会議の件数の関係で、今、素案ですけれども、確か12月に、いつも国際会議の数字がJNTOから公表されますので、次の原案のタイミングでは、できるだけ最新のものに。あと、おっしゃられたG7とか、そういった部分も要件に入ってくると思いますので、そういったものをできるだけ直近のものを整理していきたいと考えております。

#### (高橋部会長)

ありがとうございました。それでは、水野委員、お願いいたします。

#### (水野委員)

まず、6ページ目のめざす姿の実現に向けた政策展開の基本方向ですが、先ほど、岡田委員の方からもありましたけれども、非常にわかりやすく政策の柱の組み替えを行っていただきまして、ありがとうございます。前回、申し上げた意見を反映していただいたのかなと思っています。

それから、4ページ目のめざす姿についての考え方ですが、各委員からご指摘のあった点が、非常に的確に反映されているなと思っていますし、私も、内容については、全く同感というところがございます。カーボンニュートラルですとか、大きな時代の転換点を迎えて、道外、海外から人や投資を呼び込んでいく、魅力ある地域を作っていくということに加えて、道民が主体的に動いて、北海道が新たに生み出した価値を道外、海外に発信していくことで、北海道だけではなくて、日本や世界をより良いものにしていくという視点だと思います。まさに、そのとおりの内容になっていて、5ページ目の上段にある3案においては、皆さんからも賛成の声が多かったですけれども、1番左の「北海道の力が日本そして世界を変えていく」というのが、まさにそうした動きをピタリと表しているのではないのかなと思ったところであります。

その上で、5ページの中段にある「一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる社会へ」というところで、道民一人ひとりに対して視点を移して、全般的にそういうこともしっかり書いていくと、バランスもいいですし、イメージがすごく伝わりやすいのではないかなと思っています。私からは以上でございます。

#### (高橋部会長)

ありがとうございました。それでは古地参与、お願いいたします。

#### (古地参与)

私からは、皆さんがおっしゃられたようなこととも絡んでくるかなと思いますが、前回の部会から見ますと大分方向性が絞られて、ベクトルが見えてきているというところでは、事務局の皆

さんに、感謝申し上げます。

一方で、今まで議論が出ていますけれども、「多様な人」、「多様性」というのが前回の議論で、キーワードになった訳ですけれども、具体的に誰を指すのかということに関しては、これまでも、岡田委員もおっしゃっていましたが、具体的に何というのか、そこまで、総合計画に盛り込めるかどうかというのはあると思うのですが、何か、ペルソナをイメージできるというか、まさに主語を、つまり「誰」が何をやるのかというようなことがにじみ出てくるような形にできると、道民一人ひとりがイメージをしやすいのかなと思います。

その上で申し上げますと、先ほど石井委員がおっしゃっておられましたけれども、これまでの議論では出てきましたけれど、ペルソナとして、「若者」という言葉が、若者の就業率とかそういう話が出てくるのですけれども、やはり今回の素案を拝見しても、若者が何をこの北海道でしていくのか、もしくは、することを期待するのかというような視点があまり出ていないような気がしますので、やはり、今後の北海道を担っていく方々という点でいうと、若者の役割をもう少し何か明確にできないかなという感じがしています。

それで、資料1の5ページ目、このめざす姿の検討なのですが、私もここを見たときには、特にこの一番左側、「日本そして世界を変えていく」というのは強いメッセージにはなるのだろうなと思います。一方で、具体的に何を変えていくのかということがぼやける可能性があるのですが、なかなか難しい部分もあるかもしれませんが、6ページの、政策の様々な柱、方向性のところで、具体的に実現することを書いて、日本、さらには世界がどのように変わっていくのかというイメージを示すと、道民一人ひとりがどのように動けば効果的かということイメージしやすいのではないかと思います。

こちらの整理の仕方に関しては、他の委員の方々もありましたけれども、現計画より大分整理がされてわかりやすくなったのかなと思いますけれども、めざす姿の検討案で、例えば、「変えていく」という案が採用されたときに、それがどのようにこの6ページの話とつながるのかなというのが見えるようにしてほしい。真ん中の「北海道の価値で世界に飛躍する」に関して、北海道の価値というものが、この6ページの政策の柱の中でどのようにして実現されていくのか、私達の目の前に現れてくるのかということ、これまでも北海道らしい様々な政策の展開とか、独自性みたいなことも、これまでの議論で出てきたかと思いますが、そういうことが、よりわかりやすくなるようにつなげていただければいいかなと思います。

先ほど、岡田委員もおっしゃっていましたが、道民の人たちが手に取った場合自分が動く姿がイメージできるのかということに関しては「北海道の力が」とありますけれども、「北海道民の力が」と言った方が響くかもしれません。先ほど、川村委員の方からありましたけれども、「北海道」という言葉が主語になったときに、どれだけ一人ひとりに響くのかなということは、改めて考える必要があるかと思います。その部分がある意味、この副題の部分で補っておられるのだと思いますけれども、最初の方で、先ほど、加藤委員からもありましたが、ある意味、なぜこの総合計画を策定するのかといったときの究極の目標、目的は、豊かで安心して住み続けられる、ということになるかと思いますが、もちろん、これは非常に大事なことなのですが、ちょっと受身というか、そういった社会とか地域が自然にできていくという感じにも捉えられかねないので、例えば、「多様な人が活躍し」という表現もありますけれども、私達が動くことによって、そういう社会を作っていくんだよというような、より能動的な言葉が入ってくると良いかと思いました。

そして、6ページ目のところで、「グローバル化」という項目が、「③各地域の持続的な発展」のところに入っているけれども、例えば、4ページを見たときに、「世界の大きな変化」というものが、グローバル化とか、世界の力を取り込んでいくということともつながってきているのですが、この「③各地域の持続的な発展」という地域戦略のところ、グローバル化が入っていることに違和感を感じます。もう少し上位のレベルで入った方がいいかと思いますが、そうすると逆にわかりにくいということもあるのかなと思いますが、もう少し工夫できないかなというのが、私の感想です。以上です。

## (高橋部会長)

私も、是非、個人的な意見を含めてお話させていただきたいと思いますけれども、確かに今までの議論をしっかり汲み取っていただいてまとめていただいたということに関しては敬意を表したいと思います。先ほど、川村先生とのやり取りでもありましたとおり、やはりわかりやすいということは、小学生とか幼児にわかるのではなくて、組み立てというか、議論がわかりやすいということだと私は思っているので、そのあたりのところを先ほどお話しましたように、ロジックが抜けているところはしっかり埋めていただければということが1点です。

2点目は、資料1の5ページ、上の3つの「めざす姿」の検討案では、左の一番左の方がいいなと思って考えていました。特に、今までのめざす姿と少し違っているのは、変えていくというところが、要するに、現在進行形のイメージがあって、このところ、これまでの計画のように目標を示すだけではなくて、変えていくプロセスもこの中に入っているのだというイメージが良く出ているので、素晴らしいなと思っていました。尚且つ、私もお手伝いしている計画は、どちらかというところ北海道が国に貢献するということにウエートがありますが、この計画は、国の一歩先を進んでいて、北海道がそのエンジンになって日本を引っ張るとか、世界を変えていくというメッセージが出ているので、素晴らしいメッセージだなと思っています。

それと、やはり、これ下の段の副題は少し議論しなければいけないかもしれませんが、上部のタイトルと対になっているところが良く、上の方は攻めで、下はセーフティネット的にしっかり地域をつくる社会を作るという作りと解釈でき、一つのセットになっているんだろうなと思います。そういう形でめざす姿というのを表現できているので、この対は素晴らしいと思います。

あとは、言葉については、少し議論しなければいけないなと思いました。皆様のご意見聞いて、「社会」がいいのか、「地域社会」がいいのか、また、「地域」だけがいいのか、このあたりを考えなければいけないと思います。また、「活躍」という言葉を入れるのがいいのか、「活躍」と表現すると「活躍」の定義や、活躍できない人はどうなんだと話になってしまうので、そのあたり言葉をどうしていくか、さらに「変化」という表現がいいのか、「転換」としているという表現がいいか、いろいろ言葉がありますけれども、この辺りは、少し皆様から意見いただきながら、ブラッシュアップしていければと思いました。

あと最後に、6ページ目、「グローバル化」、まさに、古地参与が、ここにあるのが、違和感があって、これは、多分次の議論で、「政策展開の方向性」とか「指標」のところに関わってくるかと思いますが、個々に見るべき柱なのか、それとも全体を包括するものなのかということも含めて、少し指標のところも含めて議論できたらと思います。

私からは、以上ですが、皆さんから何か付け加えて、ご意見ですとか、今までいろんな委員・参与から意見いただきましたので、それに、何かご意見があれば、挙手していただけますでしょうか。

## (意見なし)

それでは、皆様の意見を総括すると「めざす姿」は5ページの一番左の案を中心にまとめていくことでよろしいかなと思いますし、副題は上の案の一人ひとりの方が自分事として捉えられるのではないかと、多様では主語がぼけてしまう可能性があるとありますし、「社会」がいいのか「地域」がいいのかは、この辺りは、皆さんから御意見いただくのか、次の原案で出している、議論するか含めて検討したいと思います。

では、「めざす姿」については、よろしいでしょうか。

## (一同首肯)

### 「政策展開の基本方向及び指標の項目」

## (高橋部会長)

それでは、次の「政策展開の基本方向及び指標の項目」について皆様から御意見いただきたいと思ひます。これも重要なところでございますので、また、同じように石井委員から始まって、名簿順に皆様からご意見いただきたいと思ひます。

## (石井副部会長)

私の専門は、自然や環境ですので、資料4の70ページ目から、今日は、深掘りしたいと思ひます。解像度があるので、書きぶりは基本的にお任せしますが、なんとなく全体的に言葉が古いので、今までのことを書いているような気がするので、もうちょっと先のことを書きましようというのが基本的なものです。例えば、「循環型社会」という項目はいいが、「循環経済への移行」と表現するように言っています。「生物多様性」ではなく、「自然資本」の中での「生物多様性」という言葉になってきて、今は「ネイチャーポジティブ」という言葉に変わっています。北海道の自然が基盤ということは、やはり「自然資本」があって、そこから、産業や観光、エネルギー、農業、漁業だとか、いろいろなものが出てくるので、「自然資本」という方がいい。その自然資本を大事に、大事に守っているのが「循環型社会」で、「適正処理」により汚染問題がなくなるだとか、あるいは、地域がちゃんと循環しながら、地域経済も作っていくというような「地産地消」ですよ。そういう言葉がにじみ出てくるといいかなと思ひています。

後は、解像度の問題で、例えば、7行目の「閉鎖性水域」の話は、昔から言われているんですけども、窒素とリンの問題で、北海道らしいといえば、家畜ふん尿や化学肥料の施肥の管理が排出源になっていますので、これは、食料安全保障の問題で、肥料高騰に関わってくるわけです。そうすると、例えば、ふん尿や生ゴミ、下水汚泥などの有機性廃棄物を有効利用しながら閉鎖性水域の環境保全も図っていくといったいろいろな対策も出てくると。

それから、2つめは、10行目には「水資源」とありますけれども、恐らく当時は中国の方がいろいろな水源地の場所を買っていることが問題になったことが背景にあり、それ自体は大事なことだが、これからは、一歩進んで、レアメタルなど無機、鉱物資源の枯渇が世界的に言われておりますので、具体的には小型家電や太陽光パネルのリサイクルに繋がってきますよと。

3つめの13行目では、いわゆる「地産地消による資金の域外流出の抑制」だとか、「シェアリング・エコノミー」、「物の所有からサービスへ」とか、あるいは14行目の「環境配慮行動」とあるが「ナッジ」、「行動経済学」の話も出てきています。それから、何と言っても、産官学金の連携によって、地域資源を有効に使っていくということが今の方向性ですので、なんとなく言葉尻が分からないではないが、すべてバージョン、アップデートする必要があるのかなという気がします。その下の、18行目の「生物多様性」も「自然資本」で「生態系サービス」という言葉が10年来使われていますので、そういった言葉にしていくだとか、さらに、各企業は温室効果ガス排出量などをTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）で開示することによって、ESG投資を呼ぶ流れになって、経済と繋がってきましたし、また、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）で企業活動が自然資本に与える影響がどれだけあるのかも、財務指標として公開することが投資を呼び込むことになっていますので、そうしたことがこれから10年間しっかり取り組まなければならないことと思ひます。

それから、21行目の、「エゾシカ」、「ヒグマ」については、最近「アライグマ」の被害も出てきており、個体数管理よりは、農業被害が少なくなる、人身被害がなくなることの方が強いメッセージかなと。何のために個体数を減らすのか、そこなんですよね。個体数を減らしても、農業被害が同じであれば意味がないと。むしろ、自然と共生していないことになってしまうので、そうした発想も必要です。

それから、25行目の道民1人あたりのごみの排出量が多いことが触れられているが、これは本当に多いです。その原因の1つは、観光客による廃棄物、特に夏の観光シーズンは事業系の水産物や廃棄物のごみが多くなります。また、産業廃棄物は、いわゆる処理料金が全国平均よりも安いので、中間処理やリサイクルされずに最終処分場に流れていくという経済的な問題もあります。なので、北海道の特性を踏まえた指標に変える必要があるかなと思ひます。財政難や人口減、

担い手不足で、各自治体の一般廃棄物処理が疲弊しており、人手不足な上、施設の更新ができず、適正処理すら困難だと。適正処理があるからリサイクルがあると思うんですけど。特に焼却施設やリサイクル施設の老朽化が進んでいて、国は施設の集約化・広域化を指導し、道もそうした方向性の計画を作りました。そういった意味で、行政だけが担うのではなく、民間企業との連携パートナーシップで地域の環境を良くしていくと、あるいは働き手、担い手を確保していく努力が必要です。

加えて、海ゴミについて、海に囲まれた北海道では、漂着ゴミの問題が自治体を疲弊させています。プラスチック、流木、動物の死体、こういったプラスチックは世界的にも注目されており、グローバルの視点でも大事なかなと思います。

例を挙げれば、キリがなくなりますが、こうした点をアップデートしていく必要があります、あと、「現状・課題と対応方向」の表現が変わってくると、自ずと「政策の方向性」も言葉が変わってくると思っています。

指標のところ、専門家として説明させていただきますが、「廃棄物の最終処分量」だけで足りるのか、「リサイクル率」や「循環利用率」の向上、「1人1日あたり排出量」の低減も目標になり得るのではないかと疑問に思われるかもしれないが、これらは「北海道循環型社会形成推進基本計画」に個別に設定している指標なので、いいかなと思っています。肝は、最終処分量を減少させることについては、1人1日あたり排出量が減らなければ、最終処分量は減りません。中間処理、リサイクルをやらないと最終処分量は減らせません。民間とのパートナーシップをやって、再生利用量を増やさないと、最終処分量は減らせません。ここだけ見ると全体が分かるという意味で、この指標でかまわないかなと思います。

#### (高橋部会長)

ありがとうございます。ワードのアップデートは是非、必要ですね。もうひとつ指標のことにに関して、先ほど、古地参与からもお話がありましたけれども、これから先どういう社会になるのかを見せるような指標でないか、今までの指標では、なかなか将来像が見えづらいものがありますので、その辺りの指標を、是非考えて欲しいと思いました。ありがとうございます。

事務局の方で、今答えることはなくてよろしいですね。

#### (計画推進課長首肯)

それでは、次に岡田委員、よろしくお願いします。

#### (岡田委員)

私からは、基本方向の2を中心に述べさせていただきます。資料4の45～49ページあたりなんですけれども、「安心して子供を生み育てることができ、子どもたちが健やかに成長できる北海道」の項目です。ここには、妊娠・出産の希望が叶うことが、まず書かれていて、そして、子育て、その後に、子ども虐待の未然防止ということが書かれています。

子供を望んで産んで育てている人が、どれだけ虐待をしているのかというと、むしろ、子供ができちゃった。だから、産むという人が子供を虐待したり、究極の場合には、子を殺したりということになっていると思います。

子供の数を増やしたいという思いはあるかも知れませんが、何よりも望まない妊娠をしない。そして、生活不安があるような状態で、子供を育てるという意気込みがない状態で出産をしないような教育。それが、1番の子ども虐待の防止になるのではないかなと思いますので、子ども虐待の未然防止の1つ前に、できれば、性教育などを入れていただければかなと思いました。そうするとじっくり来るかなと思いました。学校での性教育の実施などは、これは、一つの指標にもなり得るかと思っています。

次に49ページですが、これは言葉の問題でちょっと教えていただきたいのですが、1行目に、「家庭の養育能力の低下」という言葉があります。これについては、データがあるのかどうか。

今の家庭全体的に養育能力が下がっているというデータがあるか、あるいは、子育て家庭全体に占める養育能力低い家庭の割合が高まっているというデータがあるのか。そのどちらかのデータが少なくとも示されなければ、この家庭の養育能力の低下という言葉は、一生懸命子育てをしている人ほど、カチンとくる言葉だと思しますので、もし、そのデータを示せないのであれば、「子供の養育が十分にできない家庭の存在」くらいの表現にした方が適切かと思えます。

それから、次に、54ページなのですがすけれども、「現状・課題と対応方向」のところ、男女がともに、社会のあらゆる分野において、個性と能力を十分に発揮できるようにする。そして、下の方の33行目あたりから、女性が安心かつ自立して暮らせる社会づくりを進めるとあるのですがすけれども、指標のところ、女性の年齢が限定されています。25～34歳と、年齢を限定した理由について教えていただければと思います。もし、限定をつけるのであれば、左側の安心かつ自立して暮らせるということとの関連でいえば、むしろ、安定雇用にある、あるいは、正規雇用されている女性の率の方がむしろ、左の課題と対応する指標かなという気がいたします。

次の55ページなんですけれども、先ほど、めざす姿のところでも触れましたが、20行目くらいに「誰もが尊重され活躍できる社会の実現」。ここは、女性・高齢者・障害のある人が書かれているのですがすけれども、「長期間無業」で職業を持たずにいた人なども入れていただけますとありがたいなと思います。と、言いますのも、この同じページの6行目に、再犯防止という言葉があります。今、刑務所出所者については、福祉的支援と、そして就労支援が盛んに行われています。地域で刑務所から出た人をしっかり受け入れる、排除するのではなく、受け入れることで再犯を防止する。そのような言葉を入れるかどうかは別としてそういう含みを持つような表現にさせていただけると嬉しいなと思います。

それから、57ページのところです。男性の育休の取得促進を図るというところ、大変嬉しいのですがすけれども、現実を見ると、男性が育児休業を取ろうとしても、昭和世代の男の上司がなかなか許さないというのがあると思うんですね。育児休業取得率として、育児休業を取らせてはもらったけど3日だけとか、そういうことも現実にはありますので、取得率だけではなく日数、理解のある上司であれば、そんな3週間だけでもいいのか、そんな早く子供は育たないぞというようなふうに言われる。なので、率と同時に育児休業の日数も1つの目安になるかなと思います。

それから、59ページ、そして、地域のところ61ページにも関連するのですが、地域の企業で、例えば、59ページ31行目事業承継を支援する人材で事業承継という言葉があります。

それから、60ページの10行目くらい地域の賑わいを創出という言葉があります。

それから、61ページ、地域コミュニティを支える人材が不足している、このあたり、先ほど若者というお話も出たのですがすけれども、今、大学では地域のインターンシップですとか、ボランティアにどんどん学生を出して、その地域の課題を考えてこいというような授業を持っているような大学が少なからずあると思いますので、学生のインターンシップですとか、ボランティアの受け入れをすることで、若い人がともに地域のこれからを考えるというような内容をもう少し入れられないかなという気がいたしました。以上です。

#### (高橋部会長)

ありがとうございます。いくつかご質問がありましたが、例えば、49ページの家庭の養育能力が低下しているということとか。

#### (佐々木計画推進課長)

1つは、家庭の養育能力の低下ですが、どのレベルまでのデータの存在か確認する必要があります。併せて、ご指摘の表現と連動しますので、検討していく必要があると認識しております。

同様に、女性の就業率の年齢が、この区分になっている部分について、なぜ、この区分なのかということをも明確に説明できなければいけませんし、政策の方向性とそれがつながっていることも大事ですので、ご指摘を踏まえてしっかりと検討して対応していきたいと思えます。

**(高橋部会長)**

ありがとうございました。それでは、加藤委員お願いします。

**(加藤委員)**

まず、資料1の6ページ「政策展開の基本方向の方向性」というところの「②多様な人の活躍と安全・安心なくらし」というところで、「1 子ども未来」という項目がございます。

ここに、結婚・出産と言葉が2つ並んでいるのですが、結婚を入れる理由は何かあるんですかというのが1つです。

もう一つ、後ろの方に「見守り育てる社会」というのがありますが、これは、47ページの「地域全体で子どもを見守り育てる体制の構築」になっていると思うのですが、社会であって、体制ではないんじゃないかなと思います。

それと、19ページのところに、感染症の関係が載っていますが、ここについては、この間の感染症の委員会もありましたので、その辺の書きぶり合わせていただければと思います。

45ページの10行目のところに「～低い数字となっていることから、結婚や出産を望む全ての人々」と言っているのですが、果たしてこの表現が本当にいいのかどうかという問題と、指標の中に出てくる合計特殊出生率について、前回も申し上げたのですが、これは、めざすような目標値なのか。そうではなくて評価なのではないか。様々な政策をやった結果、出生率がどう変化したかということであって、中間値や目標値というのは、国の「産めよ、殖やせよ」を連想させるようなものになるので、ちょっと、違うのかなという気がしています。

あと、福祉関係で、私どもがちょっと気になっているのは、项目的に少ない部分ではあるんですけど、これから認知症が非常に大きな問題となってくると思います。

令和5年9月26日には、内閣総理大臣決裁で、幸せの年齢の社会として、「認知症と向き合う幸齢社会実現会議」というのを、国が設置して、地方公共団体、各自治体にも、計画を作って一生懸命やりなさいよ、そのための財政支援をしますよ、というような方向が打ち出されているということで、若干、認知症の関係を入れた方が良くないかなと。これからちょっと大変になってきますよということをやっと触れていただけると嬉しいかなと思います。

それに関連してなんですけれども、指標の関係でいくと、人材センターの数も出ていますけれども、私自身としては、介護認定率が重要と考えています。要するに、これから健康な人を作っていくということであれば、介護認定率が下がってくれば、一番いいんですけども、そうはいかないとは思いますが、全国平均と比べてどうなのだろうか。例えば、今、一番問題になっているのは、65歳以上という括りであれば、元気なものですから、全国で18%ぐらいの認定率になってしまいます。ところが、85歳になると58%と、要するに85歳以上の方に介護認定を受けないよう、元気な人にしていくのが一番重要な話ですから、介護認定率っていうのが、一つ指標の中に、入っていくと非常にわかりやすくなっていくのかなと思います。

認知症施策の中でいくと、成年後見というのが、言葉として出てくると思いますので、その辺も含めて考えていただきたいなと思います。

あと、スポーツの関係なのですが、折角、オリパラの選手というふうになっていますので、パラスポーツということも入れていただくと、健常者のスポーツだけではなくて、北海道におけるウィンターパラスポーツの発展というものを考えていただければと思います。

**(高橋部会長)**

ありがとうございました。次に、川村委員、お願いします。

**(川村委員)**

全体的なことで、ちょっと個別にどうこうではないのですが、総合計画を例えば、デジタルというキーワードで検索して全体を眺めて見たんですけども、先ほどの議論でもあったように北海道は少子高齢化の問題として、人が少なくなっていく中で、北海道は非常にポテンシャルはある。これを受けて、この先、北海道が世界を変えていく、変わり続けていく、そういうような流

れだと思うのですが、そのときに、何でそれが可能なのかということを経路に示す必要があるのかなと思います。そう考えると人が減っていくのでこれまでのやり方で、これまで以上に輝き続けられるんですよということは、経路ではないと思うので、そうなるのであればこれまでない方法があるから、人が減っていく中でも、輝き続けるポテンシャルをもっと発揮できるっていう、そういうストーリーにならなきゃいけないと思います。

その中で、それを達成するために、何が新しい武器になるのかっていうと、当然デジタルやAIになる訳でして、もちろん、デジタルの新しい産業が生まれるという話は、それはそれでわかりやすいストーリーなのでいいと思うのですが、個別に出てきている色んな課題に対して、どうやってデジタルやAIを使って変えていけるのかという視点で眺めてみると、DXやAIを導入、デジタルトランスフォーメーションも考慮しながらなど、イメージ的な書き方になっていて、もうちょっとそこを変えていくということを考えると、もうちょっと具体的にデジタルやAIが、なぜ、その課題を解決できるのかということを示す必要がある印象を受けています。

いろんな方が、地域を含めていらっしゃるって、当然、デジタルやAIに詳しくない方々も、この計画を見て自分たちでこれからどうしていこうということを考えていくのだと思うのですが、やっぱりそういう方々がこれを見て「なるほど」と、こういうようなことを考えれば、我々もデジタルやAIを導入できるかもしれないし、確かに人は減っていくのだけでも、ここを強くしていくような、可能性というものが見えるよなというような、もうちょっと何か全体的にそういう書きぶりが欲しいなと思いました。なんとなく、デジタルやDXを導入しますみたいな、どこも取ってつけたような一文であって、その前後の文脈からあんまり連動していないので、その文章があってもなくても、特に違和感がなくなるような、その文章のDXやAIなどを削除しても、多分、文章の流れとしてはつながってしまうような書き方になっているので、ロジックとして、これだと潜在力を発揮するために、我々は新しい武器を持っているというメッセージ性としては弱いということ、全体的に感じたので、もう少しそこを工夫していかないといいかなと思っています。

言うまでもないですが、この2週間くらいでChatGPTの機能がアップするなど、ChatGPTに限らないですけど、新しいサービスがどんどん出てきているので、動きが非常に早い状況になっています。一般の方を含めて、キャッチアップすることは難しいのですが、その中で、ある程度方向性を示さないと、DXを取り入れましょうとは書いてはいますが、後は、皆さんでキャッチアップしてくださいみたいな計画だと、それぞれ自分たちでそれ調べてやってくださいみたいな印象になるのかなということで、この短時間でそこを修正していくのは大変だとは思いますが、そこは、先駆けて道庁でもChatGPTの導入ってことでいろいろ議論されているところもあると思いますが、やっぱり、行政でもそれを導入するっていうフェーズに入ってきているので、民間だとそこをもっと早く行かなきゃいけないということでもあると思うので、もうちょっとそこるところっていうのはやっぱり「How」としてDXやAIがあるっていうことで、これは「How」がないとそれはできないというような、むしろこの「How」があるからこそのできるんだみたいな、そういうまとめ方をもう少しするといいかなと思いました。

それから、あともう1点は指標についてなんですけれども、先ほど、議論した大きな目標があって、それに紐づいてこの指標というのができているはずで、そのときに、一つ一つ細かくは申し上げないのですが、やっぱり大きな目標とこの指標っていうのは、対を成しているようなそういう粒度で揃っているのかということところが、若干、気になるところはありました。具体的なところは、先ほど、各委員からも指摘されているところもあるので、申し上げますけれども、そういう意味で、指標間の横の粒度が揃っているかどうかということ、大きな目標とこの粒度というのが対応している、うまく説明できるかっていうところについては、もう少し精査が必要かなという印象を受けました。以上です。

#### (高橋部会長)

ありがとうございました。次に、佐藤委員お願いします。



#### (佐藤委員)

4 ページ、34～35 ページになりますけれども、「めざす姿」においては多様な主体・主体性が非常に重要なキーワードになっています。この度はエフエムもえる、建設業の一員として参加させていただいておりますけれども、同時に地域の観光協会や観光連盟にも従事しており、そうした視点を切り口に地域づくりや観光を見てみました。主体性や多様性は、地域づくりや観光に非常に重要で、観光は幅の広い産業であり、北海道の総合産業で、地域の主体性を引き出すという意味でも非常に重要な産業となっています。

北海道が日本そして世界を変えていく、これを縮小版として言い換えて例えるならば、北海道の各地域から北海道観光を考えるという視点を、持っていただきたいと思っています。これまでは北海道の各地域は各地域の観光を考えてきましたが、その枠を超えた観光地域づくりをしようという意味です。そのようなことを踏まえると、「観光地づくり」という単語は違和感が残ります。「観光地域づくり」と書いた方がこの総合計画にはふさわしいと考えるところです。これは、DMOの基本的な概念となりますが、これからの地域観光は「観光地」を作るのではなく、観光事業を通じて地域の多様な主体が連携して振興を図る。そこに地域の主体性が盛り込まれていけば非常にいいものになるという考えで、単に地域づくりをつければ良いということではないということをご理解いただきたいです。

続きまして、75 ページ4章の15 行目「地域づくりの基本方向」の中で、人口減少の進行とありますが、これは札幌の主な自然減と6割を占める地方の社会減、いわゆる人口流出が大きな課題となっています。人口減少を一言で括ると、やや問題が散漫になってしまうのかなと思いました。当然、札幌に人口が増えると出生率が下がりますし、札幌は出生率1.0台、留萌は1.5台と田舎に人が増えることを単に安易に期待することはできないけれども、そういう減少を踏まえ、人口減少というのは一つの括りでは課題解決の前提となるべき現状の認識を誤ったものにしてしまうのではないかと懸念されます。

余談になりますけれども、加藤委員が仰った「結婚・出産」という表現に違和感を持たず、時代に追いついていないのかなと思ひ省察しておりました。確かに望まない出産もありますが、岡田委員からもありましたが、安定した結婚・安定した出産という側面もあるので、こうした表現は慎重な議論が必要であると思ひます。

前回の委員会の中でも触れたのですが、人口・エネルギー・食は、地方が都市部に送り出すことによって、お金や情報に変換し、価値に変換されて、地方に戻っていないことが問題となっている。これは、都市部と地方が一連托生の運命共同体、前回の委員会では「相補的経済循環圏域」とお話しさせていただいておりますが、そこを、強調していきたいと思ひます。

最後に、76 ページの「振興局と市町村が一体となった取組の推進」の「・」2つは非常に素晴らしいことを書いていると思ひます。全くそのとおりだなと思ひます。留萌の実情をお話すると、現在は素晴らしい人材が揃っており、まさに地域づくりを担う多様な主体の育成・確保など、地域と一体となって推進することをやっただきっており、感謝するところですが、ただ、これは属人的な部分が大きく、今後は、そのばらつきを、員数や予算などでカバーしていくなどの対策が必要になっていくのかなと思ひます。この「・」2つは、現実に即した、良い表現だと思ひます。

#### (高橋部会長)

はい、ありがとうございました。続きまして、水野委員、お願いします。

#### (水野委員)

はい、よろしくをお願いします。何点か述べさせていただきたいと思ひます。

1 点目は、36 ページから記載がありますエネルギー部門についてでございます。再生可能エネルギーの利用拡大ということはもちろんでございますけれども、原子力発電など既存電源の活用についても明記させていただきたいと思ひているところでございます。前回も申し上げました通り、

この新たな総合計画の10年間というのは、エネルギーの安定確保が極めて重要な問題だと思っております。持続可能な脱炭素社会の形成というところに向けては、やはり、原子力発電や水力発電、CO<sub>2</sub>排出削減に取り組む火力発電など、既存電源の活用により、エネルギーの安定供給を図りながら、再生可能エネルギーの導入拡大していくことが肝要であると思っております。そのことは、国のGX推進戦略ですとか、現在、策定中の第9期北海道総合開発計画案においても明記されているところであります。新計画におきましても、例えば、36ページの「3. ゼロカーボン」の「現状・課題と対応方向」の中において、第9期の計画案と同様でございますが、「北海道には、風力、太陽光、地熱等の再生可能エネルギー源が豊富に賦存しており、環境と経済・産業が両立した脱炭素社会に貢献するため、原子力・水力の活用、火力発電所のCO<sub>2</sub>排出量削減への取組の推進等による既存の発電所等の活用によりエネルギーの安定供給を図りながら、再生可能エネルギーの導入を拡大することが求められている」といった趣旨の表現を盛り込むことが必要と思っております。我々、経済界としても、その実現に向けて、原子力発電等既存電源活用、再エネ開発、この両面について取り組んでいく考えです。

2点目は、前回、お話ししましたが、ラピダスのような特定地域における大型プロジェクトについて、その効果の全道波及を計画に明記いただきたいと思います。北海道経済連合会では、毎年各地域に所在する会員企業様と定期的に意見交換を行っておりますけれども、今年行った中でも、「ラピダスのように道央圏で大きなプロジェクトが立ち上がっても、自分たちには人手不足だとか、賃金上昇といった悪いことばかりで何もメリットが感じられない」という意見を多く聞かれている状況であります。現時点で、こうした方がいいといったことは難しいかもしれませんが、例えば、75ページからの第4章の「地域づくりの基本方向」の中の「1. 地域づくりの基本的な考え方」の中において、「次世代半導体産業集積や再生可能エネルギー開発などの特定地域における大型プロジェクトの効果を全道に波及させ、均衡ある発展を図るには、産学官金が連携して広域的な視点で地域づくりを進める」といったような考え方を記載するといかがかなと思うところであります。

3点目は、政策展開の基本方向の中の36ページの「ゼロカーボン」の記載の拡充についてであります。ゼロカーボンについては、現在、道庁さんや当会も参画しております、「Team Sapporo Hokkaido」の中で、世界から北海道にGX投資を呼び込むための様々な取組が検討され、進められているところでございます。本計画においても、そうした取組の推進についての記載を盛り込むのがよろしいのではないかと思います。

4点目は、42ページの人材育成・確保についてでございます。改めて申し上げるまでなく、人手不足は最も重要、かつ喫緊の課題であると認識してございます。そうした中、一口に人手不足と言っても、高度な知識や技術を持った人材の不足から、建築の現場の従事者の絶対数の不足まで、様々な類型があると思っておりますし、また、常勤者の採用なのかパートタイマーの手配なのかといった「雇用形態」の別もあると思っております。こうした「人材の類型」だとか「雇用形態」に応じて対応も異なってくるものと思っておりますので、現行の記載では、その辺の整理ですとか、政策の方向性の記載にも、もう少し改善・拡充の余地があるように思いますので、ご検討いただければと思います。

5点目は、北海道らしいIRの推進について、計画に明記していただきたいということであります。35ページの中に「北海道らしいIRコンセプトの検討を進める」と記載いただいておりますけれども、新計画の期間である10年後というと、現在選定が進んでおります、大阪等に続く第二陣の候補地が決定されてくるスケジュール感でございますので、現行のコンセプトの検討という表現は少し時間軸が異なっているように思います。北海道らしいIRというのは、自然だとか、食、文化、クリーンエネルギーなどの北海道の強みを体現して、道外・海外からの人や投資の呼び込みにつながる重要な機会でありまして、経済界としても推進の機運が高まっているところでございます。IRについては、コンセプトの検討に加えて、実現に向けた活動といったところも記載としていただきたいと思います。

最後に6点目ですけれども、72ページのスポーツについて、新たな観点の盛り込みについて、ご提案したいと思います。記載いただいているスポーツを通じた道民の健康増進、競技人口拡

大・競技力向上という点に関しては全く同感ですけれども、一方、年間を通じて、様々なスポーツを楽しめる北海道の強みを活かして、スポーツを通じて人や消費を呼び込んで、北海道のブランド力や稼ぐ力の向上を図るといった観点もあると思います。私ども、北海道経済連合会では、それを「スポーツアイランド北海道」と名付けて、その推進に努めているところであり、計画においてもそうした観点を反映していただき、経済界と一体となって取組を進めていただきたいと思います。

多岐にわたりご意見申し上げましたけれども、多くの会員企業様からの生の声に基づく経済界としての問題意識でありますので、是非計画への反映について、ご検討いただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

#### (高橋部会長)

ありがとうございました。では、古地参与、よろしくお願いします。

#### (古地参与)

私の方からは、多文化共生とかグローバル化に関わるのところを、お話をさせていただきたいと思います。まず、69ページのグローバル化、さきほど位置付けに関する違和感を申し上げましたが、ここでは内容について申し上げます。まず指標ですが、ここでは目標が「世界に開かれた共に築く北海道」となっていますが、この目標と指標が連関するのかが、今ひとつわかりにくいと思います。「日常的なコミュニケーションができる英語能力を有する生徒の割合」と書いてありますけれども、なぜ生徒なのかなというのちょっとわかりにくいです。また、そもそも英語だけでいいのかという話もあろうかと思ったり、英語はできないけれども、他の外国語ができますという人もいらっしゃると思います。このように考えたときにこの指標でいいのかなと感じます。これに代わるような指標があるのかどうかというのは、私も把握しきれていない部分があるので何とも言えないですが、この辺りはもうちょっと工夫が必要かなと思います。

さらに、外国人居住者数、これも一つの指標にはなると思うのですが、外国人が住んでいるということだけを以て世界に「開かれている」と言えるのかという問題提起をさせていただきます。「共に築く北海道」の部分に外国籍の方々も関わっているよねというような指標があると、より「開かれている」ことも見えてくると思ったり。経済的な指標になるかもしれないのですが、例えば、道内に住んでいる、住んでいないに関わらず、外国からの道内への投資とかですね。さらには、逆に道内の企業で国外で何らかのビジネス展開をされている企業の数とか、あとは、今度はめざす姿の「一人ひとりが安心して暮らせる住み続けられる北海道」というところにもつながってきますけれども、外国人居住者の方々に対する満足度調査みたいなものもあればそれを使えばと思いますけれども、ない場合にはそういうものも何か作っていきながら、より主観的な指標も用いていくのも大事かと思ったり。

経済的な話に戻りますけれども、外国人の企業経営者数みたいなものも、もしあるのであれば、指標としてあり得るかなとも思ったり。さらに、外国の方が北海道に住まわれることによって、地域の経済とか社会にどういう影響があるのかという点で言うと、一つは経済効果みたいなものが出せるといいでしょうし、外国人労働者の所得というものがどのように変化しているのかのようなデータもあると面白いのではないかなと思います。現在取得可能なデータかどうかは、とりあえず考えないで申し上げます。

さらに、例えば、福祉の分野などにおいて、介護人材といったような話も出てきます。介護人材の中で、外国籍の方はどれぐらいいるのかなと。これは、在留資格とかで見れば、多分出ると思うのですが、そうすると、北海道の福祉が外国の方々によって支えられているということも見えるかと思ったり。経済的な指標を先ほどいろいろ挙げましたが、私達の暮らしに密接に外国籍住民が関わっているのだというのを見せるような指標というのも、まさに、「共に築く北海道」になっていくのではないかなと思ったり。

あと、先ほど言語の話を上申しましたが、英語とか外国語を道民が話すということも大事なかもしれませんが、外国籍の住民の方が、日本語でどれだけ生活ができているのかとい

う指標もあると良いと思います。あとは、アウトプットになってしまうかもしれないのですが、日本語教室に通えている外国籍住民の数ですね。私は今、檜山振興局からお話させていただいていますけれども、この地域の外国人技能実習生が日本語を勉強したいと思っても、日本語教室がない。そうすると函館まで行かなければいけない。自分で行けるかというとなかなか難しい訳で、先ほどの川村先生の話ともつながっていきますけれども、例えば、それをデジタルというハードを使って、どのように解決していくのか、そのようなことは、おそらく道でもされているような気はするのですが、そういうところにきちんと向き合って、戦略的に施策として取り組むことが各地域におけるグローバル化というところにもつながってくるかなと思います。

さらに申し上げますと、アイヌの方々のところなのですが、今挙げられている指標は73ページの「アイヌ民族が先住民族であることの認知度」で、これが100%になることがもちろん理想なのでしょうが、この指標だけで良いのでしょうか。72ページの現状と課題のところ、アイヌの方々を謂われのない偏見や差別を受けていて、教育や経済的な面において格差が見られるとあります。これらの課題がどう改善したのかを表す指標が必要だと思います。次に、アイヌの方々が、民族としての誇りをより強く感じられるような地域に北海道がなっているのかというようなこともですね、調査が可能であれば指標とすることが大事なのではないかと思います。私の専門分野の一つがカナダ研究ですが、カナダでは、先住民族の地位向上に関して、連邦政府や州政府がいろいろ取り組んでいますけれども、その中でも民族の誇りといった話が出てきます。北海道が率先して取り組んでいくことが、先ほどのめざす姿で、「北海道の力が、日本、そして世界を変えていく」というところにも繋がっていくのではないかと感じております。

また、75ページ以降に関して、「地域づくりの基本方向」のところ「現状と課題」があり、3つの段落から構成されていますが、何が課題なのかよくわからないというのが正直な感想です。さきほどロジックという話がありましたけれども、ここで書かれている課題は道内を構成する様々な地域が抱えている課題なのか、もしくは北海道と市町村との関係、連携に関わる課題なのかというのが今一つよくわかりません。さらっと読むと何となくそうかなという感じもするのですが、何を伝えようとしているのかよくわからないので、もう少し踏み込んだ記述をお願いしたいです。ここがわからないと地域づくりの基本的な2つの視点、なぜこれら2つの視点なのかということが、今ひとつ鮮明に見えてきません。これら2つの視点に関わることが課題であって、これまで取り組んでこられたのであれば、現在、この2つの視点に関して具体的にどういう課題を北海道として抱えているのか、つまり、道庁として抱えているのかということが見えないと次の段階に進めないと思います。ただ、この辺りに関してはいろいろと難しい部分もあるのかもしれませんが、あえて申し上げておきます。これまで出来たこと、出来なかったこと、だから、今後10年も引き続き特に出来なかった部分に関して取り組んでいきますというようになっていく方が良いのかなという感じがしています。

さらに申し上げれば、基本的に北海道、道庁として何をしたいのかということ鮮明に出していただかないと、市町村側としても道の役割や方向性が分かりません。連携地域といった概念も新しく出されていますので、広域自治体としての役割を改めて明確に示された方が、今後の連携、協働がしやすいのではないかと感じております。

あと、細かいことなのですが、76ページの「様々な連携で進める地域づくり」のところ、2つ目の多文化共生社会の実現に向けて、「外国人も安全に安心して暮らせる環境づくり」とありますけれども、もっと踏み込んで、それこそ先ほど活躍という言葉の是非もありましたけれども、なんといいですか、活躍しなくてもいいのですが、外国人の方が自己実現できるような、単に暮らしているだけではなくてですね、自分がこの地域で役に立っているよね、ここに居場所があるよねということですね、言葉に落とし込んでいただけたらいいかなと思いました。

81ページですが、道南連携地域の「地域のめざす姿」のところ、言葉の意味を確認したいのですが、「北の架け橋」という言葉がありますけれども、この「北の架け橋」というのは何を意味されているのかな。本州との玄関口という意味なのか、どういう意味なのかが、ちょっとわかりにくいと思います。

あと、渡島地域の2行目のところで、「道南の食×酒」という話が出てきますが、今、ワイン

の話とか、日本酒の話で、道南が盛り上がっているというのは、函館で生活しているのでわかるのですけれども、それを全く知らない人が見たときに、なぜこれなのかよくわからないと思います。ここだけすごく具体的になっていますので、道南地域の現状みたいなものをもう少し丁寧に示された上で、さらに、それを伸ばしていくのが道南に求められる役割なのですよ、期待したいですよという道庁の姿勢があってこういう話になるのかなと思いますので、その辺りのロジックが道南地域に詳しくない読者にも分かるようにしていただけると良いかと思います。

あとは、最後、全体の話に戻りますけれども、先ほど、岡田先生の方から、認識に対する根拠は何なのかというご質問がありましたけれども、全体的にそういった評価をするときに、データもそうなのですが、どこかで研究者や他の政府機関が書いているようなことがあるのであれば、大学教員的な視点で申し訳ないですが、引用をつけると良いのかなと思いました。ですから、脚注を付けるなりしていくというようなことができると疑問が解消していくのかなと思いました。長くなりましたが、以上です。

### (高橋部会長)

ありがとうございます。予定した時間がまいりましたが、皆さんにお時間の延長をお許しいただけるということをご前提で、もう少し会議を続けさせていただきたいと思います。私からも折角ですので、いくつか専門的な観点からお話させていただきたいと思います。大きく2点です。観光分野とあとは社会経済の基盤整備のところ、交通の部分が書いてありますので、そのあたりを少し要約しながらお話させていただきたいと思います。

まず観光の部分です。本来は中村委員からもご意見頂きたかったのですが、計画に書いてある内容が、めざす姿とどうリンクしてくるのかというところが、はっきりしません。北海道は観光、食というところを前面に打ち出している割には、何かこの観光の将来像が、この34ページ、35ページのところではなかなか見えてこないのではないかなと思います。一方、国の総合開発計画では、世界水準の観光地をめざすという形でいろんな提言をされています。是非ここは、北海道では独自に何をやるのかというところを書く必要があるかなと思います。特に、秋に行われた、アドベンチャー・ツーリズムの会議の後、どういうふうブラッシュアップして、それを継続していくのかというところが、十分ここで書き込まれていないところがありますので、そのあたりを少ししっかり書くところかなと思います。課題としては、富裕層どうするのか、人材育成をどうするのか、ガイドの話も含めて多岐にわたります。先ほど川村先生のお話にもありましたように、デジタル技術と観光についても十分書き込まれていないので、そのあたりを書き込む必要があるかなと思います。

さらに、今、議論になっている観光地の新税についての課題も十分に書き込まれていません。新税も実際に実施するとなると結構年月がかかります。今後10年の話の中で、今から準備し、税金を取ったときに何をめざすのか、どのように観光施策に結びつけるのか、このあたりの議論も含めてですね、この辺りにしっかり書いておく必要があるかなと思います。

社会経済の基盤整備のところでは、ほとんどの部分が交通に関連する内容となっています。このあたりの書き方として、どうしても総花的になっているかなと感じております。ここはやはりメリハリをつけて記載する必要があります。交通というのは本当に今困っているところもあります。2024年問題でバスの運転手不足、トラックのドライバー不足により、人が運べない、物が運べないというような状況の中で、今すぐにでも解決しなければいけない問題が山積していますし、中長期的な話では、新幹線の延伸が北海道にとってかなり大きなインパクトになることは明らかで、それをどうやって地方まで波及させていくのかというところを含め、短期的課題と中長期的課題の解に向けてしっかり書き込む必要があるかなと思います。

もう少し、国の話をさせて頂きますと、社会資本整備重点計画の国土幹線道路部会では、2050年の道路についてワイズネットという提言を出しており、これからの道路の使い方の提案されているわけですね。当然自動運転がそこに入ってきます。北海道の自動運転を実現するには、まだまだ解決しなければならない課題も山積していると思いますけれども、これも今から準備しておかなければ、結局、北海道が日本を変えとか、世界を変えというようなことを、標榜して

いる割には、後追いになってしまう可能性が十分あります。積雪寒冷地の中での自動運転も含めて、今後、北海道の交通というのをしっかり考えた書きぶりとしては、まだまだ不十分なところがあると思います。そのあたりをしっかりと書いていただきたいと思います。

皆様から意見をいただきまして、政策展開の基本方向と指標の項目、これに関してのご意見いただきました。全体的な話、さらには、個別の話色々いただきましたので、そのあたりを含めて、今後事務局で検討いただいて、書けるものを取捨選択しなければいけないと思いますけれども、そのあたり、議論いただきたいと思います。

## 「地域づくりの基本方向」

### (高橋部会長)

それでは、次の議題ですが、地域づくりの基本方向という形で、もう既に皆様から意見いただいているところもあります。ページでいくと、75ページ以降なのですが、更に、何か地域のあり方、その地域の有り様も含めて、書き足りないところを付け加えなければいけないところ等あればご意見いただきたいと思いますが、これは、どなたでも結構です。石井委員お願いします。

### (石井副部会長)

最初に、一つだけ言い忘れたことがあって、再エネのところですね。エネルギーという言葉があったんですけども、全部、電気に見えるので、やはり北海道だと、灯油だとか、ガスだとか、天然ガスLPGですね、なかなか脱炭素化は難しいと言われてはいますが、そういうものを少しずつCCU(Carbon dioxide Capture and Utilization)だとか、SAF(Sustainable Aviation Fuel)とか、いろんところで工夫が始まっています。e-メタンとかですね。そういったことを含めて、熱エネルギーというのも非常に重要なキーワードですので、熱エネルギーのことをまずは入れていただければと思います。

それから今の地域ですね。例えば77ページ目ですかね、これもアップデートされるんだと思うんですけども、例えば6行目のところの、道内市町村と札幌市、首都圏という表現ですけども、何となく人口の多いところとか、経済の豊かなところとくつつきたがる。いいんですけども、そうではなくて、やっぱり道内市町村同士も連携もありますし、道外のいろんな都市が、地域もありますし、海外のいろんな地域とつながっていくということも、ネットワークの時代ですので、そういったような首都圏にこだわらなくてもいいのかなという気もしますし、首都圏も含めたという形になるかもわかりませんが、もうちょっとネットワーク、世界に広がっていくようなイメージの言葉でもいいのかなと思いました。

それから、産業振興や活性化というところありますけど、これも食だとか観光だとか、これまでの議論のところの強みみたいなものが、例えばというのは具体的な言葉でできていいですし、それが、世界とのつながりということでラピダス、色々な世界の研究者が来るという話かもわかりませんが、ちょっとどういったような補完をするのかみたいところを、少し具体的な形で書けたら、本当はいいのかなと思いました。

それからちょっと前に戻るんですけども、76ページのところで、振興局と市町村が一体となったり、取組の推進というのが書いてあってですね、これ全然この通りなのですが、やはり今回は僕ちょっと反省かなというふうに思っていて、やはり連携地域の中での作りこみが、本当にどこまで市町村の本当の隅々のボトムアップ的な意見が汲み上げられて、作られてきているのかなということ、少しく、完全に煮え切らないっていうところがあって、やはり振興局と市町村が普段からこういう計画づくりだとか、普段から課題を共有するとか、走りながら物事を考えながら、こういったことをどんどん変えていこうというようなところを、ing系でこうやっていくようなところの、むしろ、その仕組みを作っていこうというのも計画なのかなと思って、そのところをちょっともっと言ってもいいかなと思ったところです。以上です。

### (高橋部会長)

ありがとうございました。その他、ございますか。佐藤委員いかがですか。先ほど地域づくりというような話もありましたけれども、もう少し、付け加えてご意見があればいただきたいと思いますがいかがですか。

### (佐藤委員)

先ほど、ここに踏み込んでお話をさせていただきましたが、1点、人口減少の話で、言い漏らしたことがございまして、生産人口と消費人口、それは、人口減少では両方の課題がでてくる。生産人口に関しては、ある程度政策でフォローできるのではないかと。消費人口を増やすよりはるかに力業でなんとかなるかと。逆に、消費人口の方は、交流人口と関係人口を増やして行くしかないのですね。定住人口を増やすのはかなり難しい状況になっていますので。そういう面で産業が非常に重要になってくると。それは、観光に関わらず、いかに消費人口を呼びこんでいくのかというところが、もう少し具体的に、次なのかもしれませんけども、ふれていただきたいなと思っております。

もう一点お伝えしたいのが、振興局内の連携は肌感覚としてかなりとれているなど感じているのですが、道北の中で、3振興局でどこまで連携をとるべきなのかと。宗谷、上川、留萌という、非常に特性というか幅が広いというか。振興局3つで、本州でいくと3県とか5県とかのエリア、人口は少ないんですけども、エリアになっていると思いますので、これ一つでくくるといのはかなり難しいのではないかなと。ただ、道の施策上、いくつかのエリアに分けていくといのは反対するものではありませんので。ただ、これがあたかも似たものだろうという認識だと、ちょっと、現実と乖離するかなと感じておりました。

### (高橋部会長)

ありがとうございます。確かに、この連携地域というのは、前回もお話しましたけれども、染みだし部分があるので、重なりある部分があって当然だと思います。確かに行政区で割るとこういう形になるかもしれませんが、実際の生活圏や行動圏域を少し考えながら連携のあり方を考えて行く必要があるかなと思います。それが、まさに補完という言葉がいいのかわからないですけども、新たな連携みたいなどころではないかなと思います。その他、地域のあり方についてご意見があれば。古地参与よろしいですか。先ほど、道庁と市町村の役割分担みたいなどころもお話ありましたけれども、何か付け加えてお話がありましたら短くお願いしたいと思います。

### (古地参与)

先ほど佐藤委員もおっしゃっていたと思うのですが、グローバル化の話との関連で、各地域が、北海道の中での役割のみではなく、世界の中での役割を考えていくことも必要だと思います。たとえば、私は江差の方々に、「世界の中の江差」を考えてくださいと常々申し上げています。突拍子もないように聞こえるかもしれませんが、少なくとも、江差の場合は江差追分があって、その全国大会にブラジルやハワイから人が来たりするというようなことがあります。函館というまちのストーリーも世界との繋がりを考えやすい部分はありますが、各地域が、北海道、日本そして世界という重層的な領域で、自分たちの位置づけを考えていくことが必要だと感じています。

ちょっと一つ最後付け加えたいのが、指標の考え方に関して、「全国何位」みたいなことはやりませんよということがあったかと思うのですが、先ほど加藤委員の方から、何か比較の対象がないとわかりにくい部分もあるのではないかとご指摘があったように、可能であれば、競争をするという話ではなく、自分たちが、北海道が今どういう位置にあるのかというようなことが見えるような、ベンチマークというものはある程度持っておいてもいいのではないかなという感じがします。ただ、北海道と例えば他の都府県を比べたときに、北海道の特殊性というかこの広大な領域もありますので、どういう感じでベンチマーク設定するのかというのは今思いつきません。数字やデータが何を意味するのかということが道民の方々にわかっていただけのような仕組みは必要かなと思いました。以上です。ありがとうございました。

(高橋部会長)

ありがとうございました。その他ございませんか。

### 「総合計画の考え方・計画の推進」

(高橋部会長)

それでは、時間も大幅に超過しているのですが、最後の議題です。計画の考え方、計画の推進でいくと最後のページですね、89ページ、90ページ。この内容について、皆様からご意見いただきたいと思いますが、どなたからでも結構です。石井委員、お願いします。

(石井副部会長)

90ページ目の辺りですが、評価の話なのですが、進捗管理ということでどうしても何かと数字的に見えるものだけが、パラパラと見えてきていいよね、悪いよねとなりがちな気がするもので、例えば、先ほど皆さんで議論していただいた、北海道の力で日本、世界を変えていくという、こういったストーリーとか事例だとか各町の取り組みだとか、そういうこのポイントめざす中で照らしあわされた各町の取り組みを見るというかね、それを知らせるかとか、それも一つの進捗管理かなという気がしますので、そういった、どう日本を変えていくのかとか、世界を変えていくみたいな様を、みんなで見たいなと思って、そういった評価も結構できるといいかなと思いました。

(高橋部会長)

ありがとうございました。そのほかございませんか。計画の推進、考え方も含めて、ご意見あればいただきたいと思います。いかがでしょう。先ほど、加藤委員から、目標値と政策の評価値は違うのだというお話をいただきましたけど、その点も含めて、今後計画を推進していく、管理していく上で、何かご指摘があればお聞きしたいと思いますが、いかがですか。

(加藤委員)

どうしても、道庁とすれば、点検をするときに、この指標に達してないだとか達しているだとか。指標に到達すればいいんだみたいなところが、逆に目標になってしまって、我々、すぐできるものと、時間かけてもやらなければいけないものがあるかと思います。ですから、指標は確かにそのさっきベンチマークということがありました。確かにベンチマークとしては重要かもしれないのですが、それ自体が、到達目標みたいな、オリンピック標準記録ではないよということであって、我々として見ていくときに、そこに向かって、どれだけ道庁が努力をしたのかとか、逆に言うと、我々にどういうことを訴えることが足りなかったのかとか。そういうその訴え方が一番いいのではないかなと思っております。数字にあまりこだわるとちょっと違った方向に動くかなという、ただ両方とも重要なことは間違いはないと思います。

(高橋部会長)

ありがとうございました。確かに手段が目的にならないようにというところだと思います。その他何かございますか。計画の推進について。よろしいですか。はい、それでは、用意いたしました4つの件について皆様にご議論いただきました。

これから議事の総括をしなければいけないのですが、今日、ぜひ皆様からいろんなご意見いただきました。まず、めざす姿については、資料1の5ページ目で、北海道の力が日本そして世界を変えていくという文章と、一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる、社会なのか、地域なのか、それを作るのかという文言の検討はありますが、このような形で素案の中に入れていただくというような方向になったのではないかなと思います。特に前半の部分は攻めのメッセージで、後半部分はセーフティネットも含めたより基盤をしっかりとしていきたいと思いますというようなメッセ



一ジで、対になっていくということが大事であるというご意見だったと思います。

さらに、政策展開の基本方向および指標の項目に関していけば、いろいろ皆様から詳細にわたってご意見いただきましたので、これに関しては、しっかりまとめていきたいと思ひますし、今加藤委員からお話がありましたように、目標値と政策の評価値とは違うだろうと。あとは、川村委員から、大きな目標に対して、指標がしっかり構成化されているかどうかというところがポイントではないかというご意見いただきました。

あとはやはり石井委員より、評価について。ただ単に数値だけではなくてそれまでのストーリー性のある評価、ナラティブ評価のように受け取りましたが、大変チャレンジングなことだと思ひますけれども、評価の方法を含め、ご意見を頂きました。数字だけではない評価も必要というご意見だったと思ひます。当然、計画の推進ですから、各振興局、市町村でしっかりデータとして得られるものをベースに、それを積み上げていく評価というのもこれも大事なので、それはしっかりやりながら、もう一つ、その全体をどう評価していくのかという評価値についても、考えていきたいと思ひます。

地域づくりの方向については、皆様のご意見を伺いながら3つの目線があるかなと思ひておりまして、「地域の目線」と「若者の目線」と「海外の目線」、この3つの目線でもう一度地域のあり方、さらにはその全体評価のあり方というところを考えていく必要があるのだろうと思ひます。特に今回、世界を変えていくというところを、メッセージとして出しているの、やはり世界の関係を世界目線でしっかり評価するということが重要だろうと思ひています。

今回のご議論で、いろいろご意見いただきましたので、検討案として、今回出した計画のめざす姿も含めて、一部当然修正があると思ひますが、そういうものも含めて最終的な取りまとめを、私、部会長にご一任いただきたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

#### (一同首肯)

はい。ありがとうございます。では、今日、皆様からいただいた意見をもとに、事務局と調整して、素案を取りまとめていきたいと思ひます。予定としては大体年明け1月から2月に原案とりまとめという形で、また、提示させていただいて、皆様からご意見いただきたいと思ひます。今後、さらにいろいろブラッシュアップしていつて、10年に一度ということでございますので、しっかりした計画を作っていきたいと思ひます。ありがとうございます。

### **議題(2)「その他」**

#### (高橋部会長)

それでは、用意いたしました議題の1に関しましては終了いたしましたので、議題の2その他について何か事務局からございますか。

#### (佐々木計画推進課長)

次の計画部会の日程については、年明け1月中で調整させていただいております。正式のご案内は改めてお知らせいたします。事務局からは以上です。

#### (高橋部会長)

それでは、本日予定していた議事はすべて終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思ひます。

#### (佐々木計画推進課長)

お疲れ様です。高橋部会長、石井副部会長をはじめ、委員、参与の皆さま、大変長い時間に渡り、本当にありがとうございました。閉会にあたりまして、三橋部長から一言、ご挨拶申し上げます。

(三橋総合政策部長)

皆様、お疲れ様です。長時間、本当に熱心にご議論いただきまして、ありがとうございます。また、高橋部会長におかれましては、円滑な議事進行を進めていただきました。本当にありがとうございました。本日は、新たな総合計画の素案の事務局案、たたき台について、活発にご議論いただきましたので、今日いただきましたご意見を、私どもで、改めて整理をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

今日、ご議論をお伺いしまして、計画のメッセージを、道民の方々にどういうふうにお伝えするかということの重要性を改めて感じました。先ほどの、めざす姿のメッセージにつきましては、同じコンセプトで、3つの案を作りましたが、先ほどの、「北海道の力が日本そして世界を変えていく」との案について、言葉の選び方というのはとても大事だと改めて思いましたし、それを意識しながら、全体の取りまとめをしていきたいと思ひます。

それから、中身の説明については、やはり、ロジックと申しますか、ロジックの展開の中で、そのロジックが抜けたり、欠けたりしているところが、やはりわかりにくくなるということも改めて感じました。特に、文章の部分については、ロジックをつなげていくということが大事だと思います。わかりやすさは、読んでもらって、しっかりお伝えするという点では、とても大事なことだと思いますので、そこを大事にしながら、さらに、中身のブラッシュアップをさせていただきたいと思ひます。それで、整理をさせていただいた上で、今後につきましては、部会長ともご相談させていただきながら、事務局の方で、整理させていただきまして、道議会には、11月下旬に第4回定例会がございますので、そちらで素案としてご報告をさせていただきたいと思ひます。

また、今後については、先ほども部会長がおっしゃっていただきましたが、年度内に、原案をとりまとめまして、来年の夏ぐらいを目途に成案にしていきたいと考えておりますので、それに向けて、検討を進めさせていただきたいと思ひます。また、次回の部会で、いろいろご意見を頂戴できればと思ひます。引き続き、ご協力を是非お願ひしたいと思ひますので、簡単ではございますが、本日のお礼のご挨拶をさせていただきたいと思ひます。

本日は誠にありがとうございました。

(佐々木計画推進課長)

以上をもちまして、令和5年度第2回北海道総合開発委員会計画部会を閉会いたします。

本日は、長時間に渡り、誠にありがとうございました。

(閉会)